

参考資料

平成19年1月17日

薬事・食品衛生審議会  
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会長 井上 達

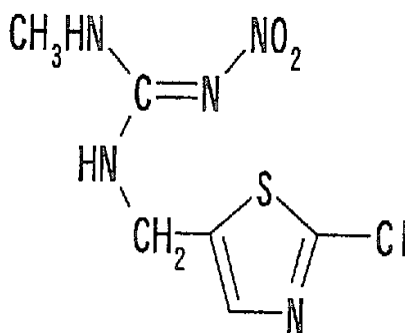
薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成18年11月8日厚生労働省発食安第1108001号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくクロチアニジンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

## クロチアニジン

1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)
2. 用途：殺虫剤  
ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。
3. 化学名：(E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
4. 構造式及び物性



分子式	C <sub>6</sub> H <sub>8</sub> ClN <sub>5</sub> O <sub>2</sub> S
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

なお、作物名となっているものについては今回適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシロ類 イネトヨイムシ	4000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウンカ類 カメシロ類 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イネトヨイムシ</span>	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ツマグロヨコバイ</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">フタホヒコヤガ</span>	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり 500mL	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	イネトヨイムシ イネミスヅウムシ	200～ 400倍					
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">れんこん</span>	クワイビレブラムシ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
きゅうり	ミキイロアザミウマ アブラムシ類 コジラミ類			収穫前日まで			4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アスパラガス</span>			アブラムシ類 ネギアザミウマ			3回以内
すいか	アブラムシ類			4000倍			4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	ミキイロアザミウマ ウリハムシ	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数		
メロン	アブラムシ類	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 回以内</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(育苗期の株</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">元処理及び定</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">植時の土壌混</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">和は合計 1 回</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">以内、散布は 3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">回以内)</div>		
	コジラミ類	2000 ～							
	シメキイロアザミウマ	4000 倍							
なす	トマトハモグリバエ	2000 倍							
	シメキイロアザミウマ							2000 倍	
トマト	アブラムシ類	2000～ 4000 倍						2000 倍	
	コジラミ類								
ミニトマト	ハモグリバエ類	2000 倍						2000 倍	4 回以内 (鉢上時の株元 処理及び定植 時の土壌混和 は合計 1 回以内、 散布は 3 回以内)
ピーマン	アブラムシ類	2000～ 4000 倍							
	コジラミ類								
	シメキイロアザミウマ	2000 倍	3 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植 時の土壌混和 は合計 1 回以 内、散布は 2 回 以内)						
にら	ネギアザミウマ	3 回以内							
ブロッコリー	アブラムシ類	3 回以内							
だいこん	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	2000 倍	3 回以内 (は種時の土壌 混和は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)					
レタス	アブラムシ類	2000 倍	2000 倍	2 回以内	3 回以内 (育苗期の株元 処理は 1 回以内、 散布は 2 回以内)				
	ハモグリバエ								
非結球レタス	アブラムシ類	2000 ～	2000 倍	2 回以内	2 回以内				
	ハモグリバエ	4000 倍							
		2000 倍							

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (は種時の散 布、育苗期の株 元処理及び定 植時の土壌混 和は合計 1 回 以内、散布は 2 回以内)
	アオムシ	2000 倍					
ねぎ	ネギアザミマ ネギハモグリバエ	2000 ～ 4000 倍	25L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内 (植付時の土壌 混和は 1 回以内、 植付後は 3 回以 内)
ばれいしょ	アブラムシ類	1000 倍 4000 倍					
	テントウムシダマシ類	2000～ 4000 倍					
てんさい	テんさいビハムシ テんさいカブリハバエ カメノコハムシ	100～ 200 倍	1L/ペーパー ポット 1 冊 (3L/m <sup>2</sup> )	定植前	1 回	苗床 灌注	1 回
えだまめ	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カメムシ類						
だいず	アブラムシ類 マメシクイガ	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アタスジヒメハムシ	2000 ～ 4000 倍					
	カメムシ類	2000 ～ 4000 倍					
りんご	カメムシ類	4000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	キンモンホリガ キンモンハモグリガ シクイムシ類 アブラムシ類 クワコナカイガラムシ リンゴワタムシ	2000～ 4000 倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病虫害名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 クワコカガラムシ カメムシ類	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シクイムシ類 カメムシ類			収穫 7 日前まで			
	コガネムシ類	2000 倍					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000 ～ 4000 倍		収穫 3 日前まで			
	コガネムシ類	2000 倍		収穫前日まで	2 回以内		
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類						
うめ	ケムシ類 アブラムシ類	収穫 7 日前まで					
ぶどう	コカカガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	2000 ～ 4000 倍		収穫 14 日前まで			
マンゴー	アザミウマ類 コカカガラムシ類	3 回以内		収穫 7 日前まで			
いちじく	アザミウマ類			収穫 3 日前まで			
すもも あんず	アブラムシ類		4000 倍				
豆類 (種実、た だし、だい ず、らっか せいを除 く)	アブラムシ類	4000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで			

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ケキスイ類 コアオハナムグリ ツノウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ミカンキジラミ	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ミカンハエ	2000 倍					
かき	カキノヒメヨコバイ	4000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回
	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ フジコナカイガラムシ カキノハナムシガ カメムシ類	2000～ 4000 倍					
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	4000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回
	コミカンアブラムシ	4000 倍					
にがうり	ミナミキイロアザミウマ	2000 ～ 4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
みかん	ミカンハモグリガ	20 倍	100mL/樹	収穫 150 日 前まで	1 回	樹幹 散布	4 回以内 (樹幹散布 は 1 回以内、 植付後は 3 回 以内)
	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ケキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	
	ミカンキンゾウ ミカンバエ	2000 倍					
オクラ	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで			3 回以内
チンゲンサイ				収穫 14 日前まで			
みずな				収穫 7 日前まで			

(2) 1.0%クロチアニジン 1 キロ粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (但し本田 期は 3 回以 内)



(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数	
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)	
	カメシ類	3~4kg/10a					
稲 (箱育苗)	イネトオイトムシ イネミスズウムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日前～ 移植当日	1 回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する	4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)	
きゅうり	コジラミ類 アブラムシ類	1g/株	育苗期後半		株元処理		
	コジラミ類 アブラムシ類		定植時		植穴処理 土壌混和		
	ミキイロアザミウマ	2g/株					
	アブラムシ類 ミキイロアザミウマ	1~2g/株	1~2g/株		4 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)		
メロン	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理		4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
	アブラムシ類 ミキイロアザミウマ トマトハモグリバエ		1~2g/株		定植時		
	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半				
	アブラムシ類 マメハモグリバエ コジラミ類		1g/株		定植時		
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類	1~2g/株	鉢上時		株元処理		
	アブラムシ類 マメハモグリバエ トマトハモグリバエ		2g/株	定植時	植穴処理 土壌混和		

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
いちご	アブラムシ類	1g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	1回
だいこん		3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌 混和は1回以内、 は種後は2回以 内)
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理は1回以内、 散布は2回以内)
ねぎ わけぎ あさつき	ネギアサミウメ ネギハモグリバエ	3~6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布	4回以内
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成育苗トレ イの上から 散布する	3回以内 (は種時の散布、 育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計1 回以内、散布は2 回以内)
	ネキリムシ類 コガ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コガ アオムシ	2g/株				
れんこん	クワイクビレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類		植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以 内)
かんしょ	コガネムシ類					作条処理 土壌混和

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内
			定植時		植穴処理 土壌混和	(育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は2回以内)

(4) 0.15%クロチアニジン粒剤 DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イナゴ類	4kg/10a				
	イネトヨイムシ フタホシコヤガ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメムシ類	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ イネトヨイムシ ニカメテユウ フタホシコヤガ イネヒメコクワリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日前~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)

(6) 0.50%クロチアニジンH粉剤DL

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	カメシ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ イコ類 イトムシ ニカメテウ フタホコヤガ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では 3回以内)
	イトモイムシ	3kg/10a				
だいで	アブラムシ類 カメシ類 フタホコヤガ	3~4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤(フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方 法	クロチアニジ ンを含む農薬 の総使用回数
稲	イコ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	5000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1 回以内、本田では3回 以内)
	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	90倍	3L/10a			空中 散布	
	ウカ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリ コプター による 散布	
だいで	アブラムシ類 カメシ類 マシクイガ	2500倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで			3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	5000倍				散布	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後では3回 以内)

## 6. 作物残留試験結果

### (1) 分析の概要

#### ① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

#### ② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、CHEM ELUT™ カラム、Sep-Pak®アルミナ(N)及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

検出限界 0.002~0.05ppm。

### (2) 作物残留試験結果

#### ① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量<sup>注1)</sup>は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.14, 0.12 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 0.13 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.04, 0.16, 0.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150 L/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>～28日の最大残留量は0.11, 0.132 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>～28日の最大残留量は0.118, 0.176 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13<sup>注2)</sup>～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈

液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.12, 1.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（3 例）において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び 2.5%箱粒剤を 50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布（0.8L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.81, 2.57, 2.28 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

## ②だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 0.5%H 粉剤 DL を計 4 回又は 3 回散布（4 kg/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, <0.01<sup>注3)</sup> ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6 kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

## ③ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.002, 0.016 ppm であった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 20.0%フロアブルの 2,500 倍希釈液を計 3 回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 6kg/10 a（植付時植溝処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（25L/10a）したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.03, <0.01 ppm であった。

#### ④かんしょ

かんしょ（塊根）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を9kg/10a、定植時作条処理土壌混和として1回用いたところ、散布後104～116日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑤てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注(1L/冊)したところ、散布後160～175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20.0%フロアブルの原液を489mL/100,000ペレット種子(種子コーティング)、16.0%水溶剤の100倍希釈液を計1回定植時苗床灌注(1L/冊)及び2000倍希釈液を計3回散布(200, 500L/10a)したところ、散布後14～30日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑥だいこん

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(150, 200L/10a)したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.016, 0.014 ppmであった。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(150, 200L/10a)したところ、散布後7～14日の最大残留量は0.84, 2.26 ppmであった。

だいこん(つまみ菜)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)したところ、散布後10日の最大残留量は0.48 ppmであった。

だいこん(間引き菜)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)したところ、散布後22日の最大残留量は0.14 ppmであった。

#### ⑦キャベツ

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200, 300L/10a)したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.18, 0.16 ppmであった。



#### ⑧レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.58, 1.33 ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

#### ⑨ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.05, 0.14 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計4回散布（200, 150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.09, 0.13 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ⑩トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.23, 0.12 ppmであった。

#### ⑪ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200, 150～200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.21, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑫なす

なす（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（162.5～200, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.290, 0.379 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.695, 0.224 ppmであった。

#### ⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.038, 0.012 ppmであった。

#### ⑮すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.022, 0.011 ppmであった。

#### ⑯温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.246, 0.086 ppmであった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は3.24, 1.09 ppmであった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.08 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の20倍希釈液を1回樹幹散布（22.2, 13.3L/10a）及び2000倍希釈液を計3回散布（666, 800L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.74, 2.96 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑰夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.023, 0.292 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.362, 2.18 ppmであった。

夏みかん（果実）<sup>注4)</sup>を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.118, 0.726 ppmであった。

⑱すだち(果実)

すだち(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.297 ppmであった。

⑲かぼす(果実)

かぼす(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.204 ppmであった。

⑳りんご

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.155, 0.042 ppmであった。

りんご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(350, 400L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.15, 0.06 ppmであった。

㉑なし

なし(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.39, 0.18 ppmであった。

㉒もも

もも(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.124, 0.084 ppmであった。

もも(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppmであった。

㉓うめ

うめ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(700, 500~800L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は0.97, 1.12 ppmであった。なお、500~800L/10a散布された1例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㉔おうとう

おうとう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(625, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留

量は 1.08, 1.96 ppm であった。

㊸ぶどう(果実)

ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後14~56日の最大残留量は0.506(大粒種), 1.43(小粒種) ppmであった。

㊹かき

かき(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppmであった。

㊺茶

茶(荒茶)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppmであった。

茶(浸出液)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppmであった。

㊻いちご

いちご(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62~104日の最大残留量は0.22, 0.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊼あんず

あんず(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(556, 500L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊽れんこん

れんこん(根)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植穴処理土壌混和として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppm

であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③① **いんげんまめ**

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 244L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③② **あずき**

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③③ **ブロッコリー**

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～21日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③④ **アスパラガス**

アスパラガス（若茎）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300 L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

③⑤ **リーフレタス**

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（200～230, 238 L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑥ **サラダ菜**

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（150～200, 195L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑦ **えだまめ**

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（定植時植溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200,

300L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.69, 0.26 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧ **にら**

にら（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 6.18, 1.42 ppm であった。

③⑨ **ネクタリン**

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400, 500L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.64, 0.58 ppm であった。

④⑩ **すもも**

すもも（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (500, 400L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.10, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑪ **ミニトマト**

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (300~400L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.66 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量は 0.90 ppm であった。

④⑫ **にがうり**

にがうり（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (250, 180L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.28, 0.16 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑬ **チンゲンサイ**

チンゲンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200, 300L/10a) したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.16, 0.85 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④④ みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（40～150, 227.8L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は1.07, 2.46 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑤ おくら

おくら（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200, 100～150L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑥ マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（320L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

④⑥ いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.27 ppmであった。

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.07 ppmであった。

④⑦ あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.59, 0.96 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑧ わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.13, 0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) だいでず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注4) 夏みかんの果実については各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

## 7. 乳汁への移行試験結果

乳牛2頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後1、3及び7日、最終投与後1、3及び5日に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。（検出限界0.01ppm）

## 8. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成17年10月4日付厚生労働省発食安第1004001号及び同法第24条第2項の規定に基づき、平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718028号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：9.7 mg/kg 体重/day

（動物種）         ラット

（投与方法）       混餌投与

（試験の種類／期間）慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数：100

ADI：0.097 mg/kg 体重/day

## 9. 諸外国における状況

コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国及びカナダで、とうもろこし、なたね、乳等に基準値が設定されている。

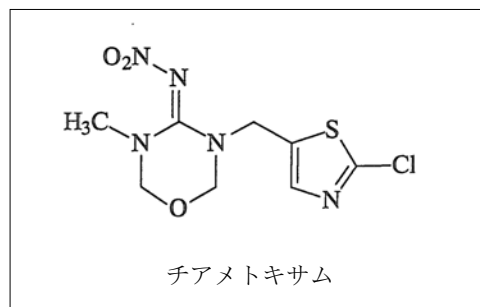


## 10. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

#### クロチアニジン

ただし、クロチアニジンは、同じく殺虫剤であり、農薬として登録・使用がなされているチアメトキサム（平成16年8月3日付厚生労働省発食安第0803001号及び平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718002号により、食品安全委員会に意見聴取中）の代謝物でもあり、チアメトキサムの使用によるクロチアニジンの残留が認められている。基準値案は、クロチアニジン使用によるクロチアニジンの残留の他、チアメトキサム使用由来のクロチアニジンの残留も含め、設定した。



なお、米国等の基準にあっては、チアメトキサムの基準の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、食品衛生法上はチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とする。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

注) クロチアニジン使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績と、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績がある場合、双方共に同一作物に使用された場合の最大残留量を考慮して定めた。記載のある作物残留試験成績のうち、右側の欄に示した試験成績（チアメトキサム由来クロチアニジン作物残留試験成績）は、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの残留値を示したものである。

### (3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のクロチアニジン使用によるクロチアニジン及びチアメトキサム使用によるクロチアニジンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	推定摂取量／A D I (%) <sup>注)</sup>
国民平均	16.5
幼小児 (1～6 歳)	31.7
妊婦	14.0
高齢者 (65 歳以上)	16.7

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

- (4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。
- (5) クロチアニジンの基準値については、本物質がチアメトキサムの代謝物でもあることから、現在食品安全委員会で行っているチアメトキサムの食品健康影響評価の結果を踏まえ、今後必要に応じ見直しの検討を行うものとする。

## クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.134(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.104(1+3回,13日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キログラム剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:<0.004(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.026(1+3回,13日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.048(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.023(1+3回,13日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.02(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,14日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.09(2+3回,14日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.14(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.12(2+3回,21日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.01(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.02(2+3回,21日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.13(2+3回,14日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.04(2+3回,21日)(#) 圃場B:0.16(2+3回,14日)(#) 圃場C:0.17(2+4回,28日)(#)
稲 <sup>※</sup> (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.10(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.07(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.11(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.132(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キログラム剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.118(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.176(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日 13,20,27日	圃場A:0.12(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.142(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日 14,21日	圃場A:0.72(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.26(1+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.28(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.75(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.18(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.78(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.17(2+3回,14日)(#) 圃場B:2.16(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#) 圃場B:1.02(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回 2+4回	14,21,28日 14,20,28日 14,21,28日	圃場A:0.81(2+3回,21日)(#) 圃場B:2.57(2+3回,14日)(#) 圃場C:2.28(2+4回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒剤 ＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:1.07(2+3回,14日)(#) 圃場B:0.54(2+3回,14日)(#)
だいず <sup>※</sup> (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず <sup>※</sup> (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 0.5%H粉剤DL	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4kg/10a	1+4回 1+3回	7,13,20日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+4回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)(S)
だいず <sup>※</sup> (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	14,21日 7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,14日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.002(1+3回,14日) 圃場B:0.016(1+3回,14日)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	植付時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	植付時播溝処理土壌混和 2g/株 1,000倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.03(1+3回,14日) 圃場B:0.01
かんしょ (塊根)	2	0.5%粒剤	定植時作条処理土壌混和 9kg/10a	1回	116日 104日	圃場A:<0.01(1回,116日) 圃場B:<0.01(1回,104日)
てんさい (根部)	2	16.0%水溶剤	100倍 定植時苗床灌注 1L/冊	1回	160,167,174日 161,168,175日	圃場A:<0.01(1回,160日) 圃場B:<0.01(1回,161日)
てんさい (根部)	2	20.0%フロアブル＋ 16.0%水溶剤	原液種子コーティング 489mL/1ユニット +100倍定植前苗床灌注 1L/冊 +2000倍散布 200, 500L/10a	1+4回	14,21,30日 14,21,28日	圃場A:<0.01(1+4回,14日)(#) 圃場B:0.02(1+4回,14日)(#)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
だいこん (根部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.016(1+2回,14日) 圃場B:0.014
だいこん (葉部)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.84 圃場B:2.26
だいこん (つまみ菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	10日	圃場A:0.48
だいこん (間引き菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	22日	圃場A:0.14
キャベツ <sup>※</sup> (葉球)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日 3,7,13日	圃場A:0.18 圃場B:0.16
レタス <sup>※</sup> (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:0.58(1+2回,3日)(#) 圃場B:1.33(1+2回,3日)(#)
ねぎ <sup>※</sup> (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a ＋4回株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.05(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.14(1+4回,3日)(#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 200,150L/10a	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.09(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.13(1+4回,3日)(#)
トマト <sup>※</sup> (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.226(1+3回,7日) 圃場B:0.120
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 200,150-200L/10a	1+2回	1,3,7日	圃場A:1.21(1+2回,1日)(#) 圃場B:1.02(1+2回,1日)(#)
なす <sup>※</sup> (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 162.5-200,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.290(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.379(1+3回,1日)(#)
きゅうり <sup>※</sup>	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.695 圃場B:0.224
メロン <sup>※</sup> (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.038(1+3回,3日) 圃場B:0.012(1+3回,3日)
すいか <sup>※</sup> (果実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 ＋2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.022 圃場B:0.011(1+3回,7日)
温州みかん <sup>※</sup> (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.246 圃場B:0.086(3回,14日)
温州みかん <sup>※</sup> (果肉)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.02(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.08(1+3回,21日)(#)
温州みかん <sup>※</sup> (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:3.24 圃場B:1.09(3回,14日)
温州みかん <sup>※</sup> (果皮)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.74(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.96(1+3回,14日)(#)
夏みかん <sup>※</sup> (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.023(3回,21日) 圃場B:0.292(3回,14日)
夏みかん <sup>※</sup> (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.362(3回,21日) 圃場B:2.18(3回,14日)
夏みかん <sup>※*</sup> (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.118(3回,21日) 圃場B:0.726(3回,14日)
すだち (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.297
かぼす (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.204
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.155 圃場B:0.042
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 350,400L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.15 圃場B:0.06
なし (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300,500L/10a	3回	1,6,13日 1,7,14日	圃場A:0.39 圃場B:0.18
もも <sup>※</sup> (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.124 圃場B:0.084(3回,14日)
もも (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:1.00 圃場B:2.04
うめ (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 700,500-800L/10a	3回	7,14,21,28日	圃場A:0.97 圃場B:1.12(#)
おうとう (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 625,500L/10a	2回	1,3,7,14日	圃場A:1.08 圃場B:1.96
ぶどう <sup>※</sup> (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300L/10a	3回	14,28,42,56日	圃場A:0.506 圃場B:1.43(3回,28日)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
かき (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400,500L/10a	3回	7,13,21日 7,14,21日	圃場A:0.11 圃場B:0.14
茶 <sup>※</sup> (荒茶)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:37.6 圃場B:2.42(1回,14日) 圃場C:9.92
茶 (浸出液)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:36.4 圃場B:2.27 圃場C:8.70
いちご <sup>※</sup> (果実)	2	0.5%粒剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株	1回	97,104日 62,69日	圃場A:0.22(1回,97日)(#) 圃場B:0.06(1回,62日)(#)
あんず <sup>※</sup> (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 556,500L/10a	3回	3,7,14日 3,7,14日	圃場A:0.72(3回,3日)(#) 圃場B:1.06(3回,3日)(#)
れんこん (根)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 12kg/10a、全面散布	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
れんこん (根茎)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	植付時植溝処理 12kg/10a +2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
いんげんまめ <sup>※</sup> (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 150,244L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.02(1+3回,7日)(#)
あずき <sup>※</sup> (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 300,150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.09(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.03(1+3回,14日)(#)
ブロッコリー <sup>※</sup> (花蕾)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.33(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.07(1+3回,3日)(#)
アスパラガス <sup>※</sup> (若茎)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.10 圃場B:0.24
リーフレタス <sup>※</sup> (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200~230,238L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:7.96(1+2回,7日)(#) 圃場B:6.67(1+2回,7日)(#)
サラダ菜 <sup>※</sup> (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 150~200,195L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:9.99(1+2回,3日)(#) 圃場B:4.41(1+2回,3日)(#)
えだまめ <sup>※</sup> (さや)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.26(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.69(1+3回,3日)(#)
にら <sup>※</sup> (茎葉)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:6.18 圃場B:1.42
ネクタリン (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 400,500L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.64 圃場B:0.58
すもも (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 500,400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.10(3回,7日) 圃場B:0.04
ミニトマト <sup>※</sup> (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300~400L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.66(1+3回,1日)(#)
ミニトマト <sup>※</sup> (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.90
にがうり (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 250,180L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.28(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.16(1+3回,1日)(#)
チンゲンサイ (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	14日	圃場A:0.16(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.85(1+3回,14日)(#)
みずな (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 40-150,227.8L/10a	1+3回	7,14日	圃場A:1.07(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.46(1+3回,7日)(#)
おくら (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 200,100-150L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.36(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.30(1+3回,1日)(#)
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.27
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.07
あさつき (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a +株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.59(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.96(1+4回,7日)(#)

## クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a + 株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.13(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.04(1+4回,14日)(#)

\*各試験区の果肉/果皮重量比（圃場A:72%/28%、圃場B:70%/30%）を用いて算出した。

#これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

\$だいず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

※印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

また、太字斜体で示した経過日数(13日)の試験については、

本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「クロチアニジン」に記載されている作物残留試験成績は、

各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、

上記の最大残留量の定義と異なっている。

農薬名 クロチアアニン

農産物名	クロチアアニン				チアトキサム					
	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		登録 有無	国際 基準 ppm	参考基準値		
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm			国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう)	0.7	0.5	○					0.02	カナダ	<0.005, <0.005/0.029(#), 0.008(#)/0.054(#), 0.046(#)
小麦	0.02	0.02						0.02	了りカ	<0.009(n=31)(+)
大麦	0.02	0.02						0.02	了りカ	<0.01(n=18)(+)
ライ麦	0.02	0.02						0.02	カナダ	
とうもろこし	0.02	0.01		0.01	了りカ			0.02	了りカ	<0.005, <0.005
そば	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他の穀類	0.02	0.02						0.02	了りカ	<0.01(n=20)(+)
大豆	0.1	0.1	○			0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#)				<0.005(#), <0.005(#)
小豆類(いんげん、さげを含む)	0.3	0.3	申			0.01(#), 0.02(#)/0.09(#), 0.03(#)		0.02	了りカ	0.054(\$), <0.005
えんどう	0.3	0.02	申			小豆類を参考		0.02	了りカ	
そらまめ	0.3	0.02	申			小豆類を参考		0.02	了りカ	
らっかせい	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他の豆類	0.3	0.02	申			小豆類を参考		0.02	了りカ	
ばれいしよ	0.25	0.25	○					0.25	了りカ	<0.01(n=32)/<0.01(n=32)/ <0.01(n=30)/0.019, 0.021/ <0.01-0.060(n=38)/ 0.036-0.169(n=4)/<0.01-0.077(n=30)(+)
さといも類(やつかしらを含む)	0.05	0.05						0.02	了りカ	<0.02(#), <0.02(#)/<0.02(#), <0.02(#), <0.02(#), <0.02(#)
かんしよ	0.1	0.1	○			<0.01, <0.01		0.02	了りカ	<0.005, <0.005/0.005(#), <0.005(#)
やまいも(長いもをいう)	0.02	0.02						0.02	了りカ	
こんにやくいも	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のいも類	0.02	0.02						0.02	了りカ	
てんさい	0.1	0.1	○			<0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), 0.02(#)		0.02	カナダ	<0.005, <0.005
さとうきび	0.02	0.02						0.02	カナダ	
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.1	0.1	○					0.02	了りカ	
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	5	5	○			0.016, 0.014 0.84, 2.26		0.80	了りカ	
かぶ類の根	0.02	0.02						0.02	了りカ	[米国大根の根を参考; <0.01-0.04(n=34)(+)]
かぶ類の葉	0.02	0.02						0.02	カナダ	
西洋わさび	0.02	0.02						0.02	了りカ	[米国大根の根を参考]
クレソン	0.02	0.02						0.02	カナダ	
はくさい	0.1	0.1						0.02	カナダ	<0.005(#), <0.005(#)/0.007(#), 0.020(\$)
キャベツ	0.7	0.7	○			0.18(\$), 0.16		0.02	カナダ	0.028(#), <0.005(#)
芽キャベツ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ケール	0.02	0.02						0.02	カナダ	
こまつな	0.5	0.5						0.02	カナダ	0.053(#), 0.113/0.083(#), 0.137(#)
きょうな	5	5						0.02	カナダ	
チンゲンサイ	5	5						0.02	カナダ	
カリブアワー	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ブロッコリー	1	0.3	申			0.33(\$), 0.07(#)		0.02	カナダ	<0.005(#), <0.005(#), 0.086(#), 0.019(#)

農産物名	クロチアニジン				チアメトキサム					
	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
その他のあぶらな科野菜	5	5					○	0.02	カナダ	
ごぼう	0.02	0.02						0.02	アメリカ	[米国大根の根を参考]
サルシフィー	0.02	0.02						0.02	アメリカ	[米国大根の根を参考]
アーティチョーク	2	2						0.4	アメリカ	
チコリ	2	2						0.02	カナダ	
エンダイブ	2	2						0.02	カナダ	
しゅんぎく	0.02	0.02						0.02	カナダ	
レタス(サラダ菜及びらしゃを含む)	20	3	○・申			0.58(#), 1.33(#), 7.96(#), 6.67(#), 9.99(#), 4.41(#)	○	0.02	カナダ	<0.06(#), <0.06(#)
その他のきく科野菜	2	2						0.02	アメリカ	
たまねぎ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ねぎ(リーキを含む)	0.7	0.7	○			0.05(#), 0.14(#), 0.09(#), 0.13(#)	○	0.02	カナダ	0.022, 0.022 / 0.059, 0.076(\$)
にんにく	0.02	0.02						0.02	カナダ	
にら	15	2	申			6.18(\$), 1.42		0.02	カナダ	
アスパラガス	0.7	0.02	申			0.10, 0.24(\$)		0.02	カナダ	
わけぎ	2	2						0.02	カナダ	
その他のゆり科野菜	2	2						0.02	カナダ	
にんじん	0.02	0.02						0.02	アメリカ	<0.01(n=14)/<0.01(n=14)/<0.01(n=7)(*)
パースニップ	0.02	0.02						0.02	アメリカ	[米国にんじんを参考]
パセリ	2	2						0.02	カナダ	
セロリ	5	5						0.02	カナダ	
みつば	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のせり科野菜	2	2						0.02	アメリカ	
トマト	3	2	○			0.222, 0.120(トマト) 0.66(#), 0.90(\$)(ミニトマト)	○・申	0.25	アメリカ	<0.005/0.018/0.024/0.038(トマト) 0.03, <0.03/0.16(#), 0.19(#)(ミニトマト)
ピーマン	3	3	○			1.21(#), 1.02(#)	○	0.25	アメリカ	0.008(#), 0.005(#)/0.016(#), 0.016(#)/0.04(#), 0.056(#)
なす	1	1	○			0.290(#), 0.379(#)	○	0.25	アメリカ	<0.005, <0.005/<0.005, <0.005/<0.005, <0.005
その他のなす科野菜	1	1						0.25	アメリカ	
きゅうり(ガーキンを含む)	2	2	○			0.695(\$), 0.224	○	0.2	アメリカ	<0.005, <0.005/0.005, 0.006/0.010, 0.008/0.008, 0.008
かぼちや(スカツジュを含む)	0.4	0.4						0.2	アメリカ	[米国Cantaloupeを参考: (<0.01(n=24)(*))]
しろり	0.02	0.02				0.022(\$), 0.011	○	0.2	アメリカ	<0.005, 0.007(\$)
すいか	0.2	0.2	○			0.038(\$), 0.012	○	0.2	アメリカ	<0.005, <0.005/0.006, <0.005, 0.008, 0.014(\$), <0.005, <0.005
メロン類果実	0.3	0.3	○					0.2	アメリカ	[米国Cantaloupeを参考]
まくわうり	0.02	0.02						0.2	アメリカ	
その他のうり科野菜	2	2						0.2	アメリカ	
ほうれん草	0.02	0.02						0.02	カナダ	
たけのこ	2	2						0.02	カナダ	
オクラ	1	1						0.02	カナダ	
しょうが	0.02	0.02						0.02	カナダ	
未成熟えんどう	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
未成熟いんげん	0.5	0.5						0.02	アメリカ	0.074, 0.118(\$)
えだまめ	2	0.2	申			0.69(#), 0.26(#)	○	0.02	アメリカ	0.020(#), 0.020(#)/0.028(#), 0.019(#)



農産物名	クロチアニジン				チアメトキサム					
	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
マッシュルーム	0.02	0.02						0.02	カナダ	
しいたけ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のきのこ類	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他の野菜	2	2						1.5	アメリカ	<0.005, <0.005, <0.005, <0.005/ /<0.3, <0.3/<0.03, 0.05
みかん	1	1	○			0.246(\$), 0.086, 0.02(\$), 0.08(\$)	○	0.2	オーストラリア	0.013, <0.005/ 0.014, 0.022(\$)/0.008, 0.011(\$)
なつみかん										
なつみかんの外果皮	2	2	○			0.118, 0.726(\$)	○	0.2	オーストラリア	0.041, 0.044/ 0.03(\$), 0.03
レモン	2	2	○				○	0.2	オーストラリア	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	2	2	○				○	0.2	オーストラリア	
グレープフルーツ	2	2	○				○	0.2	オーストラリア	
ライム	2	2	○				○	0.2	オーストラリア	
その他のかんきつ類果実	2	2	○				○	0.2	オーストラリア	
りんご	1	1	○		1.0		○	0.2	アメリカ	
日本なし	1	1	○		1.0		○	0.2	アメリカ	
西洋なし	1	1	○		1.0		○	0.2	アメリカ	
マルメロ	1	1			1.0			0.2	アメリカ	
びわ	1	1			1.0			0.2	アメリカ	
もも	0.7	0.7	○			0.124(\$), 0.084	○・甲	0.5	アメリカ	0.046, 0.080/0.08(\$), 0.12(\$)
ネクターリン	2	0.2	甲			0.64, 0.58		0.5	アメリカ	
あんず(アブコットを含む)	3	0.2	甲			0.72(\$), 1.06(\$)		0.5	アメリカ	
すもも(アールンを含む)	0.3	5	甲			0.10(\$), 0.04(\$)		0.5	アメリカ	
うめ	3	3	○			0.97, 1.12(\$)	○	0.02	カナダ	0.117, 0.245
おうとう(チェリーを含む)	5	5	○			1.08, 1.96	○	0.5	アメリカ	0.068, 0.139
いちご	0.7	0.05	甲			0.22(\$), 0.06(\$)	○	0.3	アメリカ	<0.005(\$), <0.005(\$)
ラズベリー	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ブラックベリー	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ブルーベリー	0.1	0.1						0.20	アメリカ	<0.01-0.05(n=18)/<0.01-0.02(n=4)/ <0.01-0.01(n=4)/<0.01(n=14)(+)
クランベリー	0.02	0.02						0.02	アメリカ	<0.01(n=6)(+)
ハuckleベリー	0.1	0.1						0.20	アメリカ	[米国ブルーベリーを参考]
その他のベリー類果実	0.1	0.1						0.20	アメリカ	[米国ブルーベリーを参考]
ぶどう	5	5	○			0.506, 1.43(\$)	○	0.02	カナダ	0.122(\$), 0.053
かき	0.5	0.5	○			0.11, 0.14	○	0.02	カナダ	0.012, 0.019
バナナ	1	1						0.02	カナダ	
キウイ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
パパイヤ	1	1						0.02	カナダ	
アボカド	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ハイチツプル	0.02	0.02						0.02	カナダ	
グアバ	1	1						0.02	カナダ	
マンゴ	1	1						0.02	カナダ	
パッションフルーツ	1	1						0.02	カナダ	
なつめやし	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他の果実	4	4					○	0.2	アメリカ	
ひまわりの種子	0.02	0.02						0.02	アメリカ	<0.02(n=14)(+)
ごまの種子	0.02	0.02						0.02	カナダ	

農産物名	クロチアニジン				チアメトキサム					
	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
べにばなの種子	0.02	0.02						0.02	了り力	[米国ひまわりの種子を参考] <0.01(n=20)<0.01(n=22)(+)
綿実	0.02	0.02						0.10	了り力	
なたね	0.01	0.01		0.01	了り力			0.02	了り力	
その他のオイルシード	0.02	0.02						0.02	了り力	[米国なたねを参考] (<0.01(n=10)(+))
ぎんなん	0.02	0.02						0.02	カナダ	
くり	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ペカン	0.02	0.02						0.02	了り力	
アーモンド	0.02	0.02						0.02	カナダ	
くるみ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のナッツ類	0.02	0.02						0.02	カナダ	
茶	50	50	○			37.6(\$), 2.42, 9.92/36.4, 2.27, 8.70		0.02	カナダ	0.25, 0.07/ 0.17, 0.09
コーヒード	0.04	0.04						0.05	了り力	
カカオ豆	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ホップ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
みかんの果皮	10	4	○			3.24(\$), 1.09, 0.74(\$), 1.96(\$)				0.28, 0.12/ 0.51, 0.47(\$)/ 0.30, 0.36(\$)
その他のスパイス(みかんの果皮を除く)	4	4						1.5	了り力	0.06+0.13(n=5)(+)(Mimとして)
スペアミント	0.3	0.3						1.5	了り力	0.06+0.13(n=5)(+)(Mimとして)
ペパーミント	0.3	0.3								
その他のハーブ(スペアミント及びペパーミントを除く)	5	5	○							
牛の筋肉	0.02	0.02							了り力	
豚の筋肉	0.02	0.02							了り力	
羊の筋肉	0.02	0.02							了り力	
馬の筋肉	0.02	0.02							了り力	
山羊の筋肉	0.02	0.02							了り力	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉(羊、馬及び山羊を除く)	0.02	0.01							オーストラリア	
牛の脂肪	0.02	0.02							了り力	
豚の脂肪	0.02	0.02			0.02				了り力	
羊の脂肪	0.02	0.02			0.02				了り力	
馬の脂肪	0.02	0.02			0.02				了り力	
山羊の脂肪	0.02	0.02			0.02				了り力	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪(羊、馬及び山羊を除く)	0.02	0.02			0.02				オーストラリア	
牛の肝臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
豚の肝臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
羊の肝臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
馬の肝臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
山羊の肝臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓(羊、馬及び山羊を除く)	0.02	0.02			0.02				オーストラリア	
牛の腎臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
豚の腎臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
羊の腎臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
馬の腎臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
山羊の腎臓	0.02	0.02			0.02				了り力	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓(羊、馬及び山羊を除く)	0.02	0.02			0.02				オーストラリア	
牛の食用部分	0.02	0.02			0.02				了り力	
豚の食用部分	0.02	0.02			0.02				了り力	

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン		チアメトキサム	
			登録 有無	参考基準値 国際 基準 ppm	参考基準値 外国 基準値 ppm	登録 有無
羊の食用部分	0.02	0.02		0.02	0.02	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
馬の食用部分	0.02	0.02		0.02	0.02	
山羊の食用部分	0.02	0.02		0.02	0.02	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分(羊、馬及び山羊を除く)	0.02	0.02		0.02	0.02	
乳	0.01	0.01		0.01	0.01	
鶏の筋肉	0.02	0.02				
その他の家禽の筋肉	0.02	0.02				
鶏の脂肪	0.02	0.02				
その他の家禽の脂肪	0.02	0.02				
鶏の肝臓	0.02	0.02				
その他の家禽の肝臓	0.02	0.02				
鶏の腎臓	0.02	0.02				
その他の家禽の腎臓	0.02	0.02				
鶏の食用部分	0.02	0.02				
その他の家禽の食用部分	0.02	0.02				
鶏の卵	0.02	0.02				
その他の家禽の卵	0.02	0.02				

注1) 米国基準がチアメトキサムの当該作物にあり、米国での作物残留試験が行われていない場合、参考とした作物残留試験成績について、[米国〇〇を参考]と記し、当該作物の作物残留試験成績を示した。

注2) "＃"を付記した作物残留試験成績は、適用範囲内で試験がなされていない。

注3) "4"を付記し、斜体字で記した作物残留試験成績は、米国における作物残留試験成績である。

注4) "5"を付記した作物残留試験成績は、作物残留試験成績のばらつきを考慮し、最大残留値を暴露評価に用いた。

注5) レタス及びトマトについては、品種の相違による偏差を考慮し、作物残留量の高いサラダ菜及びミニトマトの作物残留試験成績を暴露評価に用いた。

注6) 平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において新しく設定した基準値については、網をつけて示した。

(別紙3)

クロチアニジン推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼児 (1~6歳) TMDI
米(玄米)	0.7	129.6	132.2	97.8	68.4
小麦	0.02	2.3	1.7	2.5	1.6
大麦	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
ライ麦	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.02	0.1	0.0	0.1	0.1
そば	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
その他の穀類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.1	5.6	5.9	4.6	3.4
小豆類	0.3	0.4	0.8	0.0	0.2
えんどう	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
そら豆	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0
らつかせい	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.25	9.2	6.8	10.0	5.3
さといも類(やっがしらを含む)	0.05	0.6	0.9	0.4	0.3
かんしょ	0.1	1.6	1.7	1.4	1.8
やまいも(長いも)	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
こんにやくいも	0.02	0.3	0.3	0.2	0.1
その他のいも類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
てんさい	0.1	0.5	0.4	0.3	0.4
さとうきび	0.02	0.3	0.2	0.2	0.2
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.1	4.5	5.9	2.9	1.9
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	5	11.0	17.0	4.5	2.5
かぶ類の根	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
かぶ類の葉	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
西洋わさび	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.1	2.9	3.2	2.2	1.0
キャベツ	0.7	16.0	13.9	16.0	6.9
芽キャベツ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ケール	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
こまつな	0.5	2.2	3.0	0.8	1.0
きょうな	5	1.5	1.5	0.5	0.5
チンゲンサイ	5	7.0	9.5	5.0	1.5
カリフラワー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ブロッコリー	1	4.5	4.1	4.7	2.8
その他のあぶらな科野菜	5	10.5	15.5	1.0	1.5
ごぼう	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
サルシフィー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	2	0.2	0.2	0.2	0.2
チコリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
エンダイブ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
しゅんぎく	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	20	122.0	84.0	128.0	50.0
その他のきく科野菜	2	0.8	1.4	1.0	0.2
たまねぎ	0.02	0.6	0.5	0.7	0.4
ねぎ(リーキを含む)	0.7	7.9	9.5	5.7	3.2
にんにく	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
にら	15	24.0	24.0	10.5	10.5
アスパラガス	0.7	0.6	0.5	0.3	0.2
わけぎ	2	0.4	0.6	0.2	0.2
その他のゆり科野菜	2	1.8	3.6	0.2	0.2
にんじん	0.02	0.5	0.4	0.5	0.3
パースニップ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パセリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
セロリ	5	2.0	2.0	1.5	0.5
みつば	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のせり科野菜	2	0.2	0.6	0.2	0.2
トマト	3	72.9	56.7	73.5	50.7

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
ピーマン	3	13.2	11.1	5.7	6.0
なす	1	4.0	5.7	3.3	0.9
その他のなす科野菜	1	0.2	0.3	0.1	0.1
きゅうり (ガーキンを含む)	2	32.6	33.2	20.2	16.4
かぼちや (スカッシュを含む)	0.4	3.8	4.6	2.8	2.3
しろうり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
すいか	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン類果実	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1
まくわうり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のうり科野菜	2	1.0	1.4	4.6	0.2
ほうれんそう	0.02	0.4	0.4	0.3	0.2
たけのこ	2	4.0	3.4	5.2	1.4
オクラ	1	0.3	0.3	0.2	0.2
しょうが	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟えんどう	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟いんげん	0.5	1.0	0.9	0.9	0.6
えだまめ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
マッシュルーム	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
しいたけ	0.02	0.1	0.1	0.1	0.0
その他のきのこ類	0.02	0.2	0.2	0.2	0.1
その他の野菜	2	25.2	24.4	19.2	19.4
みかん	1	41.6	42.6	45.8	35.4
なつみかんの果実全体	2	0.2	0.2	0.2	0.2
レモン	2	0.6	0.6	0.6	0.4
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	2	0.8	0.4	1.6	1.2
グレープフルーツ	2	2.4	1.6	4.2	0.8
ライム	2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他のかんきつ類果実	2	0.8	1.2	0.2	0.2
りんご	1	35.3	35.6	30.0	36.2
日本なし	1	5.1	5.1	5.3	4.4
西洋なし	1	0.1	0.1	0.1	0.1
マルメロ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
びわ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
もも	0.7	0.4	0.1	2.8	0.5
ネクタリン	2	0.2	0.2	0.2	0.2
アンズ (アブリコットを含む)	3	0.3	0.3	0.3	0.3
スモモ (プルーンを含む)	0.3	0.1	0.1	0.4	0.0
うめ	3	3.3	4.8	4.2	0.9
おうとう (チェリーを含む)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
いちご	0.7	0.2	0.1	0.1	0.3
ラズベリー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
クランベリー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ハックルベリー	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	5	29.0	19.0	8.0	22.0
かき	0.5	15.7	24.8	10.8	4.0
バナナ	1	12.6	17.7	8.7	11.3
キウイ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パパイヤ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
アボカド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パイナップル	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
グアバ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パッションフルーツ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
なつめやし	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の果実	4	15.6	6.8	5.6	23.6
ひまわりの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ごまの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
べにばなの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
綿実	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のオイルシード	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ぎんなん	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	50	150.0	215.0	175.0	70.0
コーヒー豆	0.04	0.1	0.1	0.1	0.0
カカオ豆	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ホップ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
みかんの果皮	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス (みかんの果皮を除く)	4	0.4	0.4	0.4	0.4
スペアミント	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ペパーミント	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のハーブ (スペアミント及びペパーミントを除く)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.02	1.2	1.2	1.2	0.7
陸棲哺乳類の乳類	0.01	1.4	1.5	1.8	2.0
家禽の肉類	0.02	0.4	0.4	0.3	0.4
家禽の卵類	0.02	0.8	0.8	0.8	0.6
計		853.4	879.6	753.2	486.1
ADI比 (%)		16.5	16.7	14.0	31.7

TMDI : 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

- 平成13年12月20日 初回農薬登録（非食用）
- 平成14年 4月24日 初回農薬登録（食用）
- 平成15年11月13日 農薬登録申請（大豆、キャベツ、ピーマンに係る適用拡大申請）
- 平成16年10月 5日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成16年10月 7日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成16年11月 2日 第19回食品安全委員会農薬専門調査会
- 平成16年12月 2日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成16年12月 9日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成17年 1月26日 食品安全委員会（報告）
- 平成17年 1月27日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成17年 3月 2日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成17年 3月28日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成17年 6月13日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
- 平成17年10月25日 残留基準値の告示
- 平成17年 5月26日 農薬登録申請（はくさい、ブロッコリー等に係る適用拡大申請）
- 平成17年10月 4日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成17年10月 6日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成17年11月29日 残留基準の告示
- 平成18年 7月18日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について追加要請
- 平成18年 7月20日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成18年 9月25日 第4回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会
- 平成18年10月 4日 第4回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
- 平成18年10月26日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成18年11月 8日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成18年12月 7日 食品安全委員会（報告）
- 平成18年12月 7日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成18年12月11日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- |     |    |                                  |
|-----|----|----------------------------------|
| 青木  | 宙  | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授             |
| ○井上 | 達  | 国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長       |
|     | 井上 | 松久 北里大学医学部教授                     |
|     | 大野 | 泰雄 国立医薬品食品衛生研究所副所長               |
|     | 小沢 | 理恵子 日本生活協同組合連合会くらしと商品研究室長        |
|     | 加藤 | 保博 財団法人残留農薬研究所理事（化学部）            |
|     | 志賀 | 正和 社団法人農林水産先端技術産業振興センター企画調査部 調査役 |
|     |    |                                  |
|     | 下田 | 実 東京農工大学農学部獣医学科・家畜薬理学教室教授        |
|     | 豊田 | 正武 実践女子大学生生活科学部生活基礎化学研究室教授       |
|     | 中澤 | 裕之 星薬科大学薬品分析化学教室教授               |
|     | 米谷 | 民雄 国立医薬品食品衛生研究所食品部長              |
|     | 山添 | 康 東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授    |
|     | 吉池 | 信男 独立行政法人国立健康・栄養研究所研究企画評価主幹      |

(○：部会長)